

2010年3月期の概況 売上高1兆2,916億円

■ 連結売上高・営業利益の内訳 (単位:百万円)

セグメント	売上高	営業利益
百貨店事業	1,200,454	7,190
小売・専門店業	49,583	△ 232
クレジット・金融業	9,004	△ 1,228
友の会事業	259	△ 2,400
その他事業	32,315	1,173
合計*	1,291,617	4,177

*セグメント別売上高、営業利益の合計は、内部売上、振替高を消去した後の金額です。

日本経済は、世界規模の金融危機が続くなか、国内の政策効果等で一部に持ち直しの動きも見られました。しかしながら、企業収益の回復力は極めて鈍く、雇用情勢の一段の悪化やデフレの顕在化もあり、景気は格段に厳しい状況で推移しました。

小売業界においては、店舗閉鎖や業態転換などの抜本的

な改革に動き出す企業もありましたが、景気不安による消費者の節約志向はさらに進展し、多くの企業が大幅な減収基調となるなど、全体としては極めて厳しい状況となりました。

このような状況のもとで当社グループは、グループビジョンの実現に向け、三越と伊勢丹ならびにグループ各社が有する強みと経営資源を最大限に活かすべく、営業力の強化と業務効率の向上に向けた基盤整備に取り組みました。

2010年3月期の連結業績は、売上高が1,291,617百万円、営業利益は4,177百万円、経常利益は19,730百万円となりました。当期純損失は、三越のセカンドライフ特別支援制度やグループ内の一部店舗の営業終了等に伴う構造改革損失、主に三越の店舗に係る固定資産減損損失をそれぞれ特別損失として計上したことや、三越において構造改革を実施したことに伴い当期課税所得が欠損となり、同社の繰延税金資産を取崩したことなどで、63,521百万円となりました。

● 百貨店業 (単位:百万円)

会社名	売上高
(株)三越	547,037
(株)伊勢丹	395,446
(株)静岡伊勢丹	21,796
(株)新潟伊勢丹	31,917
(株)岩田屋	91,374
(株)札幌丸井今井	30,785
(株)函館丸井今井	7,395
天津伊勢丹有限公司	8,977
上海梅龍鎮伊勢丹百貨有限公司	6,513
成都伊勢丹百貨有限公司	4,221
瀋陽伊勢丹百貨有限公司	2,293
イセタン(シンガポール)Ltd.	21,004
イセタン(タイランド)Co., Ltd.	3,161
イセタン オブ ジャパン Sdn. Bhd.	13,505
米国三越 INC.	3,113

● クレジット・金融業 (単位:百万円)

会社名	売上高
(株)エムアイカード	13,683
(株)三越保険サービス	522

● 小売・専門店業 (単位:百万円)

会社名	売上高
(株)マミーナ	6,426
(株)クイーンズ伊勢丹	50,849

● 友の会事業 (単位:百万円)

会社名	売上高
(株)三越友の会	2,344
(株)イセタンクローバーサークル	1,585
岩田屋友の会(株)	746

当社グループの中核となる百貨店業においては、新たに連結子会社となった札幌・函館の丸井今井の売上計上がありましたが、国内百貨店の減収や三越の売上計上方法の変更などにより減収となりました。なお、店舗政策の一環として、三越池袋店、三越鹿児島店については2009年5月6日に、伊勢丹吉祥寺店については2010年3月14日に、三越小型店11店舗については同年3月27日までに営業終了しました。三越池袋店については、2010年1月に固定資産を売却しました。

海外の百貨店業については、中国では国全体の成長維持に向けた政策などの効果もあり、売上高は堅調に推移しました。東南アジア地域では消費回復の動きが鈍く、売上高は全体として前年同期を下回る水準で推移しました。

クレジット・金融業においてはカード統合前倒しによる経費増加や、主な収益源となる百貨店業の苦戦の影響で減収減益となりました。なお、2009年4月に当社の直接子会社となった(株)伊勢丹アイカードは、同年9月1日付で商号を(株)エムアイカードに変更しました。

小売・専門店業においては、(株)クイーンズ伊勢丹が三越恵比寿店の食品・グロッサリーゾーンの運営を委託するなど、グループ内の相乗効果の創出に向けた取り組みを開始しておりますが、個人消費の低迷の影響を受け、減収となりました。

友の会事業におきましては、(株)三越友の会と(株)イセタンクローバーサークルなどが、百貨店店舗内において会員のお客さまの利便性の向上に取り組みました。

その他、営業支援機能を担うグループ会社が統合効果を早期に創出すべく、生産性の高い業務基盤の構築に取り組みました。